

コントラバス アドバイザー



増山 一成

宇都宮市出身。

宇都宮短期大学附属高等学校音楽科卒業。

東京芸術大学 音楽学部 器楽科卒業。

ウィーン国立音楽大学 留学。

1977 年度 文化庁国内研修員。

元 読売日本交響楽団 団員。

これまでに、沖不可止、今村清一、江口朝彦、小野崎充、ルートヴィヒ・シュトライヒャーの各氏に師事。

MCF オーケストラとちぎ、ハルモニア室内合奏団、エテルニータ室内合奏団メンバー。

宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。

1. まずは 練習 …

楽器を奏するということは、自らが楽しむということにとどまらず、音楽を聴き手と共有することで成り立ちます。

自分自身も音楽を楽しみ、そして より良いパフォーマンスをするためにも、日々の練習は大切です。

○ 日頃から 日々の練習をする時も、より広い空間(ホールなど)を想像しながら、空間全体に 音を飛ばすようなイメージで 練習しましょう。

○管楽器では ブレスは大変大事ですが、弦楽器でも フレーズを考えてブレスをする事で 音楽の表現が より広がります。

※常に脱力を心がけて練習しましょう。

特に 右手の手首や関節が かたくならないように 気をつけましょう。

※弓の毛には、松ヤニを 全体的に満遍なく塗りましょう。(塗りすぎには注意)

うまく塗れると 楽器の鳴りと音量がずいぶんと違います。



2. ステージでは・・・

まずは楽器を弾く前に ホールや演奏場所の空気に 馴染ませましょう。

○コントラバスは楽器が大きく弦長も長いので、温度や湿度の影響を より受けやすく、チューニングも変化することがあります。

※チューニングを まめにチェックしましょう。

※弓の毛の張り具合も、まめに調整しましょう。

湿度の影響で変化します。

○チェロとコントラバスは エンドピンを使い、直接 床に楽器の振動を伝えます。 できるだけ響きの良いポジションを選ぶ事が大事です。

※ステージでは床の板が一枚隣なだけで、響きがずいぶんと違う事があります。



3. 演奏形体に合ったポジショニングを・・・。

○ソロの時に伴奏を伴うときは、互いにコンタクトがとりやすい場所と体の向きも考えましょう。

アンサンブルでは、メンバーの目線や動きがわかるような場所と、譜面台

の位置と高さも考えましょう。

○オーケストラでは、大体 ステージの上手奥に位置するため、指揮者、コンサートマスターとチェロ奏者が視界に入るような位置と譜面台の場所を考え、スペースに余裕があるかぎり、床の響きの良いポジションを探しましょう。

チェロとコントラバスは 同じフレーズを演奏することも多く、トロンボーンやホルンの二番、四番奏者、チューバ、ティンパニーとも関係が深く、お互いに良いアンサンブルが生まれた瞬間こそがオーケストラの醍醐味です。

※ステージでは距離がある関係で、聞こえてくる音に微妙な時間差ができる事がありますが、早めに弾くというよりは 回りの音を聞きながら、視覚的に 指揮者やコンサートマスターの弓の動きに合わせるべく、右手で発音よく弾くように心がける事が大切です。

4. さあ・・・。

本番では、適度な 良い緊張感を持ちつつ、これまで練習でつちかしてきたものと 自分を信じて、音楽を創造し、仲間や聴き手（観客）と共に 楽しい時を共有しましょう！

5. そして・・・。

練習や本番で演奏するにあたり、弾きやすく、より良いパフォーマンスをするためには、楽器のメンテナンスが大事です。

何か異常を感じたら、信頼できる楽器店に相談しましょう。

